

令和 2年 2月

# 赤坂俊彦 学位論文審査要旨

|     |         |
|-----|---------|
| 主 査 | 西 村 元 延 |
| 副主査 | 久 留 一 郎 |
| 同   | 山 本 一 博 |

## 主論文

Neurological prognostic value of adjusted Ca<sup>2+</sup> concentration in adult patients with out-of-hospital cardiac arrest: a preliminary observational study

(院外心停止の成人患者における補正カルシウムイオン濃度の神経学的予後値：予備観察研究)

(著者：赤坂俊彦、渡部友視、矢田貝（向）菜津子、佐々木直子、古瀬祥之、城田欣也、加藤雅彦、山本一博)

令和2年 International Heart Journal 掲載予定

## 参考論文

1. Myocardial delayed enhancement on dual-energy computed tomography: the prevalence and related factors in patients with suspicion of coronary artery disease

(二重エネルギーコンピュータ断層撮影での心筋遅延増強：冠動脈疾患の疑いのある患者における有病率と関連因子)

(著者：矢田貝（向）奈津子、太田靖利、網崎良祐、佐々木直子、赤坂俊彦、渡部友視、岸本淳一、加藤雅彦、小川敏英、山本一博)

令和2年 Journal of Cardiology 75巻 302頁～308頁

## 審査結果の要旨

本研究は、心原性院外心停止症例における退院時の神経学的予後と心拍再開後48時間以内の血清補正イオン化カルシウム濃度の最低値との関係について検討した。その結果、神経学的予後良好群と比較して、神経学的予後不良群では血清補正イオン化カルシウム濃度が低いことを発見した。心拍再開後48時間までの血清補正イオン化カルシウム濃度の最低値により神経学的予後良好を予測するカットオフ値をROC解析で求めたところ1.015 mmol/Lであり、感度0.50、特異度0.91、陽性反応的中度0.92、陰性反応的中度0.48となり、神経学的予後が良好な患者の検出には有用であるが、予後不良患者を血清イオン化カルシウム濃度のみで検出することは困難であると考えた。本論文の内容は、心原性院外心停止症例における神経学的予後と血清補正イオン化カルシウム濃度との関連を示唆する報告であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。